

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	小学校外国語活動と中学校外国語教育の結び方
Author(s)	又野, 陽子
Citation	YASEELE : Yamaguchi studies in English and English language education , 13 : 29 - 38
Issue Date	2009-10-25
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00052842
Right	This is not the published version. Please cite only the published version. この論文は出版社版ではありません。引用の際には出版社版をご確認、ご利用ください。
Relation	



小学校外国語活動と中学校外国語教育の結び方

又野 陽子*

1. はじめに

平成20年3月に新学習指導要領が告示された。今次改定における教育内容の主な改善事項の一つに外国語教育の充実があげられている。積極的にコミュニケーションを図る態度を育成し、言語・文化に対する理解を深めるために、小学校高学年に外国語活動が導入される。中学校においては、コミュニケーションの基盤となる語彙数を充実するとともに、聞く・話す・読む・書くを総合的に行う学習活動の充実を図ることとなる。

小学校に外国語活動が導入されることにより、中学校の外国語教育は小学校で培われた一定の素地を踏まえ、小学校との関連に留意しながら展開されることになる。小学校の外国語活動と中学校の外国語教育を有機的に結ぶためにも、小中連携を視野に入れたさまざまな視点からの研究が今後ますます重要なものになってくると思われる。そこで、本稿では、新学習指導要領を踏まえた小中連携の基本的な考え方や授業構成の視点と工夫についてまとめてみたい。

2. 小中連携の基本的な考え方

実際の授業を構成していく際の拠所となるような小中連携の基本的な考え方について以下に示し、小学校から中学校への円滑な接続を実施するために留意したい点を確認していきたい。

(1)小中の到達目標及び内容等の明確化

平成20年3月に告示された小学校学習指導要領を見ると、小学校における外国語活動の目標は次の3つの柱から成り立っている。①外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。②外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。③外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。以上の3つの柱を踏まえた活動を統合的に体験することで、中・高等学校等における外国語科の学習につながるコミュニケーション能力の素地をつくらうとするものである。

また、同じく平成20年3月に告示された中学校学習指導要領を見ると、中学校外国語科の目標は、コミュニケーション能力の基礎を養うことであり、次の3つの事項を念頭に置いて指導する必要があることが述べられている。①外国語を通じて、言語や文化に対す

る理解を深める。②外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。③聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

このように、小学校では体験的に聞くこと、話すことを通して音声や表現に慣れ親しむことが重視され、あくまで音声によるコミュニケーションが中心である。一方、中学校では聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を総合的に育成することとなる。小中それぞれのめざすものと関連性をきちんと踏まえた上で授業を構成していくことが小中連携の第一歩となる。

(2)指導方法の連続性

影浦（2007）によれば、小中連携のねらいの一つは、指導法の継続を図ることである。指導法については、教材や学習者の興味・関心および発達段階を踏まえて適切な方法を考える必要があるが、安彦監修、大城・直山編著（2008）が指摘するように、その指導法に継続性がなく、ある時を境目に大きく変わってしまえば、学習者は戸惑い、学習に不安を抱くことが考えられる。小学校で行われているようなチャンツ、TPR、歌、絵本、ゲーム等の英語に親しむ活動を中学校でも適切な場面で効果的に取り入れ配列することで、学習の雰囲気作りの面でも小中の円滑な接続が図られるものと思われる。また、活動を提示する方法として、教師による対話などを通じた言葉、具体物、模型、身体、指人形などを使っての対話、絵本や本、絵や写真、視聴覚機器等の使用を影浦（2007）は挙げているが、これらの方法を内容と適切に組み合わせることで楽しく分かりやすい活動となるような提示方法を小、中を通じて工夫したいものである。

(3)言語材料の整理と系統性の検討

中学校学習指導要領解説外国語編（平成20年9月）において述べられているように、中学校の指導計画の作成に当たっては、小学校における外国語活動を通じて培われた一定の素地を踏まえながら、中学校における外国語教育への円滑な接続が実施できるよう配慮する必要がある。そのため、地域の小学校における外国語活動の指導において、どの程度の素地が養われているのかを十分に把握することが大切である。外国語活動を展開していくための共通教材として発行された『英語ノート』を中学校の教科書と比較分析し、扱われている単語や表現、場面や題材、取り扱う際の時間数等の小学校と中学校の同異をきめ細かく把握することは、指導計画作成上の参考資料となることが考えられる。

(4)文字指導の時期と連続性の検討

新学習指導要領において、小学校の外国語活動では、外国語でのコミュニケーションを体験させる際には、音声面を中心とし、アルファベットなどの文字や単語の取扱いについては、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いることが謳われている。外国語を初めて学習する段階であることを踏まえると、アルファベットなどの文字指導は、外国語の音声に慣れ親しんだ段階で開始するように配慮し、中学校外国語科の指導とも連携させることが大切である。

松川・大城編著（2008）では、文字指導のステップとして次の8つの段階をまとめている。①アルファベットの音声を聞いて、その文字がわかる②アルファベットの文字を見て、それを音声化できる③アルファベットの文字を書き写すことができる④アルファベットの

音声を聞いて、その文字が書ける⑤文字列を見て、それが表すもののイメージができる⑥文字列を見て、それを音声化できる⑦絵カードなどで示されたイメージから、その文字列が書ける⑧英語の音声を聞いて、その文字列が書ける

『英語ノート』にある身の回りのアルファベット表示を書き写す活動はステップ③に相当し、ステップ④に相当する活動は『英語ノート』には含まれない。また、文字列を認識する段階に属する発音と綴りの関係については中学校学習指導要領により中学校段階で扱うものとされている。このように、文字指導にはさまざまな段階があるが、音に慣れ親しんだ後、音と文字とを結びつけ、文字を正確に書くことができる段階まで、小中というスパンの中で連携をとりながら適切な時期に適切なステップを丁寧に積み上げ指導していくことが必要である。

(5)カリキュラムにおける活動場面や機能面での接点

新学習指導要領において、小学校ではコミュニケーションの場面やコミュニケーションの働き、中学校では言語の使用場面や言語の働きを取り上げることが述べられている。場面に関しては、「特有の表現がよく使われる場面」としてあいさつ、自己紹介、買物、食事、道案内、「身近な暮らしにかかわる場面」として家庭での生活、学校での学習や活動、地域の行事が小中共通して例示されている。また、コミュニケーションの働きとして「相手との関係を円滑にする」、「気持ちを伝える」、「事実を伝える」、「考えや意図を伝える」、「相手の行動を促す」ことが例示され、言語の働きの例としては「コミュニケーションを円滑にする」、「気持ちを伝える」、「情報を伝える」、「考えや意図を伝える」、「相手の行動を促す」ことが挙げられている。第1学年において言語活動を行う際には、小学校における外国語活動でも慣れ親しんだことのあるような身近な言語の使用場面や言語の働きを取り上げることで、中学校における外国語の学習の円滑な導入を図ることが重要であることが中学校学習指導要領解説外国語編（平成20年9月）でも述べられている。太田（2006）は、例えば「自己紹介」を共通の題材に選んで小中それぞれ発達段階にそった授業案をつくって授業を行い、目標、活動内容、評価などを柱にスムーズな接続を検証することを提案している。それぞれの場面やコミュニケーション、言語の働きごとに実践すれば、活動場面と、そこで使う表現をどうするかといった機能を中心とした小中連携の共通のカリキュラムができる。

3. 小中連携を視野に入れた実践例

平成19年度第3学期大内中学校区小中連携教育協議会の一環として、平成20年2月29日の5校時、6校時に山口市立大内小学校の6年1組と6年3組の児童に対して筆者が英語の授業を行った。中学校での外国語学習への円滑な接続を支援する授業として、上記の小中連携の基本的な考え方を視野に入れて行ったものである。そのときの記録を以下に紹介したい。

(1)教材 英語に慣れよう

(2)学習目標

- ・ 英語の音声と文字に慣れ親しむ。
- ・ 中学校の英語学習への興味と関心を持つ。

(3) 使用表現等

- ・ あいさつの表現 (Hello./ Nice to meet you./ Goodbye.)
- ・ 日常生活 (文具、生活)、食べ物、スポーツに関する語
- ・ 慣用的によく使う表現
- ・ アルファベットの活字体の大文字
- ・ 事実情報を求めること (What is ___?/ Who is ___?)
- ・ 特定の人物・事物を見極めること (It is ___.)

(4) 学習のとらえ方

指導方法と言語材料の連続性、系統性を小学校と中学校の連携の大切な視点の一つととらえ、本時を小学校外国語活動から中学校での外国語学習へのスムーズな接続を支援する授業と位置づけた。

指導方法の連続性という点からは、まず、歌、チャンツ、クイズ、ゲーム等の遊び感覚にあふれる活動を通して英語に慣れ親しみながら英語を身に付ける学習方法を継続し、授業の展開の中で効果的に配列するようにした。また、教材や活動を提示するにあたり、学習者に身近な具体物、絵や写真、絵本、教師による言葉などの方法を内容と適切に組み合わせて、楽しく分かりやすい活動となるような提示方法を工夫した。

言語材料の連続性、系統性という点からは、小学校で扱われたコミュニケーションの場面やコミュニケーションの働き、語句や表現をらせん状 (スパイラル) に繰り返しながら指導し定着を図ることが必要になる。これまでの外国語活動で慣れ親しんだ事柄を復習の意味も含めて再度取り上げて学習の深まりをめざすような授業を展開するようにした。また、小学校外国語活動では音声を中心とした指導が心がけられているが、音から文字へという過程の指導がとても大切な課題となる。本時においてはゲームからつなげる形でアルファベットの活字体の大文字を示し、英語の文字に慣れ親しむ機会をつくりたいと考えた。

(5) 準備物

ピクチャーカード (絵、写真)、ピクトグラム、絵本、具体物、アルファベットカード、CD プレーヤー、CD、ネームプレート、振り返りカード、色鉛筆

(6) 授業の過程

① あいさつと自己紹介

- ・ 教師の自己紹介の英語を聞き、内容を推測する

T: Hello, everyone. I'm an English teacher at Ouchi Junior High School (注1). Today I came here to teach you English as a junior high school teacher. This is the first meeting with you, so I'd like to introduce myself. My name is Yoko Fujiwara (注2). I like salad. I like cakes, too. I like pink. I like spring. I play the piano. I come to school by car. Thank you. Do you understand? (発話とともに似顔絵、サラダやケーキの絵、ピンクの色画用紙、春の風景、ピアノ、車を運転している絵を黒板に貼る。絵とともにジェスチャーも用いることにより児童の理解を助ける)

- ・英語でじゃんけんをすることを楽しみながら聞き取った内容の確認をする
T: Let's check your understanding by playing "janken." If the sentence is correct, it's paper. If the sentence is not correct, it's scissors. (英語のじゃんけんにより児童の理解度を確認する。英語の指示を理解する手助けとして黒板にじゃんけんの手の形の絵を貼る)
- ・初対面のあいさつをする
T: Nice to meet you. (元気よくあいさつするよう励まし児童の発話を促し、次のコミュニケーション活動にスムーズにつなげる。向かい合ってあいさつをしている人の絵を黒板に貼り、コミュニケーションの場面をわかりやすく示す。クラス全体、クラスの半分、列、再度全体、と形態を変えて練習する)

② 復習とウォーミング・アップ

- ・既習の表現等を多量に繰り返し練習することにより口慣らしを行う
(児童の興味・関心を引くような写真、絵本、具体物(実物)を示していくことにより、意味のある文脈の中で楽しく復習や口頭練習ができるようにする。ゲームの中の教師と児童のインタラクションを通して英語の音声に慣れ親しませる)

What's this?

lemon/melon/apple/cup/glass/bike/ball/notebook/pencil/pen/book/recorder/
flashlight

(一部のみを写した写真、拡大写真、上から写した写真、横から写した写真、形がネコ型の懐中電灯(注3)を示す (It's not a cat but a flashlight.))

What sport is this?

soccer/tennis/baseball/basketball/table tennis/badminton/volleyball

(人がスポーツをしているピクトグラムを示す)

Who's this?

Shokupanman/Anpanman/Baikinman/Mickey Mouse

(飛び出す絵本(注4)やふくわらい(注5)を使用する)

What's this?

stuffed animal

(一見怪獣のぬいぐるみに見えるが、実は少年が怪獣の着ぐるみを着ているという人形を示す (It's not a monster but a boy.))

(順次写真や実物を提示していきながらコミュニケーションの場面を設定し、例えば事実を伝える (It's a lemon. など) といったコミュニケーションの働きを意識した指導を行うことを試みた。lemon, melon, apple...boy という音を聞くこと、あるいは実際にその音を発することを通して外国語の音声の特徴を捉え、慣れ親しむことができるようにした)

③ アルファベットの活字体の大文字

- ・アルファベットカードを見ながら耳による観察とそれに続く口頭模倣を行う
(音から文字へという過程の学習をできるだけスムーズにするために、②のゲームからつなげる自然な流れの中でアルファベットの活字体の大文字を導入し、英語の文字に興味・関心を持たせる)

- T: (サイズの異なる T シャツの絵を黒板に貼り) What size is this?
L, M, S...と発音練習をする



- T: (児童にとって身近なアルファベットを提示して) What's this?
CD, TV, USA...と発音練習をする



- T: (上記のアルファベットを指し示して) This is the alphabet. こうした文字をアルファベットと言います。(ホワイトボードに貼っておいた26文字のアルファベットカードに目を向けさせて) この文字の名前はA。(アルファベットカードを示しながら単独の文字としての読み方のモデルを与える。1文字ずつ、そして26文字通して、クラス全体、クラスの半分、列、個、再度全体、と形態を変えて、変化のある繰り返しにより楽しく発音練習ができるようにする。アルファベットの読み方に慣れ親しませるこれらの活動を通して、中学校の英語の授業への円滑な接続を図りたい)

- ・「ABCのうた～おほしさま」(フランス民謡,トラック3)(注6)を歌う
(本時で学習したアルファベットの読み方に関連した歌を取り上げ、メロディーとリズムにのせて学習事項のまとめを行う)

④学習の振り返り

- ・振り返りカードにより本時を振り返る
(児童の外国語活動への自信や学習意欲を膨らませ、学びの手段としても活用できるような評価シートを工夫する。Dörnyei (2003)は、児童に対してリカー트尺度を用いる場合、1つの質問に対する応答の選択肢の数を3つに絞り、

言葉の代わりに絵の形態（例えば感情を表す顔文字など）を用いて選択肢を提示することを提案している。小学校外国語活動において児童にとって取り組みやすいアンケートや自己評価シートを作成する際に参考とすることができる）

T: Let's think about today's class. Here are some handouts. Please take one and pass them to the back. You can see a three-point 'smilegram.' Please paint with colored pencils the face (icon) according to what you think about the class.

（「今日の授業は楽しかったですか」「すすんで一生懸命に授業に参加できましたか」「絵やカードを見て英語で言うことができましたか」「先生の話す英語の説明や自己紹介はよくわかりましたか」「英語の音や文字になれることができましたか」といった問いに対して、児童は自分の思いにあてはまる顔文字を色鉛筆で塗ることで自己省察を行った。授業の感想として、「中学校の授業はこんなに楽しいのだとよくわかった。よく理解できたし、中学校が楽しみです」「この授業を受けたことで、英語に自信ができました。中学校に行っても英語に困ることはないと思います」といった感想を多くの児童が記述しており、中学校の外国語学習への希望と自信が伝わってきた）

⑤あいさつ

- ・授業の終わりのあいさつを英語で行う
（授業の終わりの場面のあいさつを紹介し、英語の授業の習慣に慣れさせる）

T: That's all for today. Goodbye, everyone.

(7)評価の観点の設定

今回訪問した小学校で当時作成されていた外国語活動の評価の観点に則って、本時の授業の評価の視点として次の4つを設定した。①自ら進んで楽しくコミュニケーション活動に参加しようとしたか[英語への関心・意欲・態度]②絵やカードを見てアルファベットや簡単な単語を発音することができたか[表現の能力]③教師の話す教室英語や自己紹介を聞いてその意味や内容が理解できたか[理解の能力]④英語の文字や特有の音に関心を持つことができたか[異文化に対する関心・態度]（[]内の表現は山口市立大内小学校で当時作成されていた評価の観点をそのまま使用。）

小学校における外国語活動の目標や内容を踏まえれば一定のまとまりをもって活動を行うことが適当であるが、教科のような数値による評価にはなじまないと考えられる（中央教育審議会答申（平成20年1月））。外国語活動の趣旨、ねらい等の特質を踏まえ、子どもの動きや発言等で見られる学習の状況や成果について記述することが求められる。本時においては、上述の4つの視点から子どもの学び、よい点、変容をとらえ、授業改善への手がかりを得るとともに、児童への適切なフィードバックを行いたいと考えた。

4. 中学校外国語教育のあり方（役割）

小中の円滑な接続について、その基本的な考え方や授業構成の視点と工夫についてまとめてきたが、小学校に外国語活動が導入されたことを受けての中学校外国語教育のあり方と役割について確認してみたい。

(1) 小学校で体験してきた会話場面の再提示

会話場面の再提示については松川・大下（2007）でも中学校の英語指導のあり方の一つとして提案されている。あいさつ、自己紹介、買物、食事、道案内など小学校で扱われ慣れ親しんだコミュニケーションの場면을中学校でも言語の使用場面として何度も体験させる。例えば、同じ買物の場面でも、扱うものを変えたり、学習者の興味の変化に応じた場面設定も可能である。繰り返し学習することで定着を図ることが求められる。

(2) 使われている会話文の文字提示とその文構造や語法の理解（文字を通じた学習）

小学校における外国語活動では、音声を中心に慣れ親しみ、それを受けて中学校では文字を通じた学習が始まる（中学校学習指導要領解説外国語編（平成20年9月））。文字を正しく読み、正しく書くことが中学校での学習の大切な部分となる。「読むこと」の領域の学習は中学校から導入されることを考慮し、英語の綴りを見て正しく発音できるよう、発音と綴りとを関連付けた指導をすることが適切である。また、言えたことを正しく綴って書くことができるよう、文字や符号についての知識や技能の確実な定着を図ることが大切である。字形、四線譜上の位置などの点についても最初に丁寧に説明し指導する必要がある。こうした技能の習熟を基礎として、語と語のつながりや文と文のつながりに注意して書くことが次の大切な段階になる。正しい語順や語法を用いて文を構成し、内容にまとまりのある一貫した文章を書くことができるよう、英語のセンテンスパターン、マクロストラクチャー（注7）を習得させるよう指導を積み重ねていく必要がある。

(3) 場面や状況に合った適切な表現を考えた言語活動

コミュニケーションの働きのうち、相手との関係を円滑にする働きとして丁寧表現が小学校学習指導要領解説外国語活動編（平成20年8月）にも取り上げられ（例 A: What would you like? B: I'd like pizza, please.）、体験的にこうした表現に慣れ親しむことが例示されている。中学校においては、人間関係に応じて適切な表現を調節することを明示的に説明したり、適切な表現を選択する練習も取り扱われる。例えば、教科書 *NEW HORIZON English Course 2* では、生徒が先生にお願いする場面を扱ったモデル対話を友達にお願いする場合にかえて対話をするタスクがある。また、断るときには理由を言うようにするといった対話のマナーも学ぶこととなる（例 Sorry, ...（理由を言う））。こうした語用論的意識を涵養する指導を中学校段階から積み重ねることにより中学校以降の外国語学習での適切な言語使用へとつなげていきたいものである。

中学校では、小学校で体験したことをスパイラルな形で織り込みながら、「体験」を「知識やスキル」に転化していくことが大切（松川・大城, 2008）である。小学校における外国語活動ではぐくまれた素地の上に、読むこと、書くことを含めた4技能を総合的に育成し、高等学校やその後の生涯にわたる外国語学習の基礎を培っていくことが求められる。

5. おわりに

本稿では、新学習指導要領を踏まえた小中連携の基本的な考え方や授業構成の視点と工夫についてまとめた。小中連携を視野に入れた今後の研究の方向性として、小学校における外国語活動の授業作りの研究と同時に、本稿で述べたような小中の円滑な接続と有機的な結び方の研究が必要になってくると思われる。また、小中連携を通し、児童・生徒がどのような力を身につけたのかといった実証的データを収集し、言語習得の視点から検討することも大切な課題であろう。外国語活動は、言語や文化に対する体験的な理解、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことをめざしており、スキルの習得を目的にはしていないが、慣れ親しむ活動を通して結果として音声や基本的な表現の習得が引き起こされる部分があることは考えられる。データに基づく第二言語習得研究の側面からの考察と、そうした研究から得られる教育的示唆の実践の場での吟味を積み重ね、長期的な展望と広い教育的な視点を持ってこれからの英語教育を考えることが大切である。

【付記】 本稿は、平成20年12月13日 第15回山口大学英語教育研究会におけるシンポジウム「新学習指導要領を踏まえた英語教育の方向性—小中連携を視野に入れて—」においてパネリストとして行った口頭発表に基づく内容である。

注

- 1 所属（山口市立大内中学校）は授業時点の所属である。
- 2 姓は授業時点のものである。
- 3 Black Cat Torch Light.神戸：ハットトリック。
- 4 やなせたかし原作、ひろせかおる考案、TMS 作画(1999).『アンパンマン ミニ・ポップ①いないいないばあ!』東京：株式会社フレーベル館。
- 5 Disney Characters Kids Collection.東京：株式会社エポック社。
- 6 フランス民謡.「ABCのうた～おほしさま」『～うたってたのしい～えいごのうた』[CD]. 東京：エコー・インダストリー。
- 7 Richards, J.C.,& Schmidt, R. (2002). *Longman dictionary of language teaching and applied linguistics*.London: Longman. p.318.

参考文献

- Dörnyei,Z. (2003). *Questionnaires in second language research: construction, administration, and processing*. London: Lawrence Erlbaum Associates, Inc., Publishers.
- van Ek, J. A. (1976). *The threshold level for modern language learning in schools*. London: Longman.
- 青木昭六・田中正道編(1985).『伝達重視の英語教育』東京：株式会社大修館書店。

- 安彦忠彦監修、大城賢・直山木綿子編著(2008).『小学校学習指導要領の解説と展開 外国語活動編 Q&A と授業改善のポイント・展開例』東京：教育出版株式会社.
- 大杉昭英編(2008).『平成20年版中学校学習指導要領全文と改訂のポイント解説』東京：明治図書出版株式会社.
- 太田美智彦(2006).『日本標準ブックレット No.2 どうする？小学校英語必修化』東京：株式会社日本標準.
- 影浦攻(2007).『小学校英語基本図書選1 新しい時代の小学校英語指導の原則』東京：明治図書出版株式会社.
- 笠島準一他.(2006).*NEW HORIZON English Course*.東京：東京書籍株式会社.
- 小菅敦子(2002).「中学校英語教育の役割と現状」『英語展望』第109号.pp.22-25.東京：財団法人英語教育協議会出版部(ELEC).
- 時事通信出版局編(2008).『新学習指導要領ハンドブック 小学校』東京：株式会社時事通信出版局.
- 時事通信出版局編(2008).『新学習指導要領ハンドブック 中学校英語』東京：株式会社時事通信出版局.
- 藤原陽子(2004).「文字素と音素の対応の指導の効果について」『金田道和先生退官記念論文集 英語教育学研究』溪水社. pp.7-21.
- 松浦伸和(2005).「入門期におけるローマ字力と英語学力の関係」『日本教科教育学会誌』第28巻第2号.pp.81-89.
- 松川禮子・大下邦彦編著(2007).『小学校英語と中学校英語を結ぶ—英語教育における小中連携—』東京：株式会社高陵社書店.
- 松川禮子・大城賢編著(2008).『小学校外国語活動実践マニュアル』東京：株式会社旺文社.
- 文部科学省(2001).『小学校英語活動実践の手引』東京：開隆堂出版株式会社.
- 文部科学省(2008).『小学校学習指導要領』東京：東京書籍株式会社.
- 文部科学省(2008).『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東京：株式会社東洋館出版社.
- 文部科学省(2008).『中学校学習指導要領』京都：株式会社東山書房.
- 文部科学省(2008).『中学校学習指導要領解説 外国語編』東京：開隆堂出版株式会社.
- 文部科学省(2009).『英語ノート1』東京：教育出版株式会社.
- 文部科学省(2009).『英語ノート2』東京：教育出版株式会社.